

兵庫県養成医かわら版

第7号

2023年5月2日

発行：卒後ユニット

【 指導医に聞く 】 兵庫県立丹波医療センター

名 前：森 寛行

勤務先：県立丹波医療センター 内科

経 歴：H15 年神戸大学医学部卒

同附属病院で研修開始

H16 -17 年 県立柏原病院（現 丹波医療センター）

H18 -神戸大学医学部附属病院 総合内科

R2 現職

専 門：内科



《 丹波地域の紹介 》



丹波圏域は山林が 75%を占める農山村地帯で風光明媚な地域ですが、一方で高速道路を利用し神戸・大阪まで 1 時間弱でのアクセスが可能な地域でもあります。

高齢化率は約 35%で兵庫県の平均（28%）よりはやや高い地域ですが、農業をされているためなのか年齢に比して元気な方も多い印象を受けます。

《 当センターの特徴・地域での学び 》

兵庫県立丹波医療センターは丹波市に位置しています。2019 年 7 月に県立柏原病院と柏原赤十字病院が統合移転し、320 床の新病院として出発しました。人口約 10 万人の丹波圏域（丹波市＋丹波篠山市）の中核病院として、感染症病床を含む急性期病棟から回復期リハビリ病棟、緩和ケア病棟も有しており幅広い医療を提供しています。

基本方針として、世界標準の医療を提供すること、教えることを病院の文化として地域医療に貢献できる医療人を育成すること、などを掲げており医学教育を重視しています。また兵庫県地域医療総合診療専門医プログラムの基幹病院となっており、総合診療医、家庭医を目指す専攻医の先生も多く在籍しています。

キャリア形成卒後支援ユニット

postgrad@med.kobe-u.ac.jp

〒650-0017 神戸市中央区楠町 7-5-1 TEL 078-382-6596 FAX 078-382-6597（神戸大学総合内科医局内）

当センターの特徴の1つが隣接して丹波市健康センター ミルネが併設されていることです。診療所、訪問看護ステーション、地域包括支援センター機能を果たしているため、患者さんに連続したケアの提供をすることが可能になっています。

例えば高齢者のAさんが肺炎で丹波医療センターの救急外来を受診し急性期医療として入院診療を担当、その後診療所に通院してもらって慢性期のフォローを行うことができます。状況によっては訪問看護を導入して訪問診療を行い、終末期の方はご自宅で看取りをしたり、病状によっては丹波医療センターの緩和ケア病棟で看取りをしたり、と継続したケアに直接関与できる点が特徴的であり、大きなメリットです。

《 ～地域医療の魅力～ 養成医、地域卒学生へのメッセージ 》



私自身は長く都市部の急性期病院（大学病院）に勤務をしていて訪問診療はしたことがなかったのですが、3年前に当院に赴任してから関わり始めました。

本当に様々な家庭があり生活があること、自宅では家族が患者さんのケアを丁寧に行っていること、医療を提供していくためには多くの人の協力があること等々、もちろん理解していて大学でも教えていたことですが、頭ではなく肌感覚として学べる良い機会を得ています。地域の病院から研修を開始すると逆にそのメリットを感じにくいかもしれませんが、実は貴重な学びを得ているということを知っていただいて充実したキャリアを積んでいただければと思います。



『かわら版』を書いてみませんか？病院宣伝でも、〇〇自慢でも、地域医療に掛ける思いでも何でも結構です。原稿はどなたからでもいつでも受け付けています

キャリア形成卒後支援ユニット

postgrad@med.kobe-u.ac.jp

〒650-0017 神戸市中央区楠町 7-5-1 TEL 078-382-6596 FAX 078-382-6597(神戸大学総合内科医局内)